

第30回 平成29年12月9日 里山管理作業（下草刈り・間伐）

活動は8年目に入り、講師として新たに寺田卓二さん（一般社団法人ネクストステップ研究会）が加わりました。寺田さんはESDやSDGsといった持続可能な開発のための教育を専門とする団体の代表を務めており、県内の様々なフィールドで活躍されています。

今回は冬場ササに覆われる場所を中心に下草刈りと間伐を実施しました。約2時間の作業で、林がとても明るくなりました。



第31回 平成30年2月10日 里山管理作業（下草刈り・間伐） / シイタケの菌打ち

前回とは少し位置を変え、ササユリやキンランといった貴重な植物がみられる場所に手を入れました。低層にも光が届くよう、ササを主にした下草を刈り取りました。

また、毎年恒例となってきた間伐材へのシイタケ菌打ちを実施しました。以前に作成した原木からシイタケが出たとの声もあり、皆が熱中して作業に励みました。



第 32 回 平成 30 年 12 月 9 日 講義「里山づくりの基礎知識」 / 植樹用コナラ苗作成

新規の参加者さんが増えてきたこともあり、昨年度から新たに講師としてご指導頂いている寺田先生に、改めて里山づくりの基礎知識について講義をお願いしました。現在の里山林の姿や課題、目的に応じた管理方法について、事例を交えて解説頂きました。

管理方法だけでなく、間伐した木や竹の活用が重要となる、とお話があったため、活動に間伐材の利用も含め、検討していきます。

また、講義の後は深谷公園に移動し、間伐した後の林に植樹をするためのコナラの苗を作りました。



第 33 回 平成 31 年 1 月 26 日 里山管理作業 / 間伐材での工作（竹箸）

参加して下さる方も増えてきたため 2 グループに分け、管理作業とそれに伴って出た「竹」の利活用として工作をしました。竹は一度林に入り込むと、みるみるうちに根を伸ばし、ほかの植物の生育を阻害してしまいます。

今回の活動は伐採した竹を廃棄するのではなく、利用していくために、工作の材料として使用し箸づくりを行いました。子どもから大人まで竹を削る作業に熱中し、中にはアレンジしてスプーンなどの食器も作られた方もいました。



第 34 回 平成 31 年 2 月 23 日 里山管理作業（下草刈り・間伐） / シイタケの菌打ち

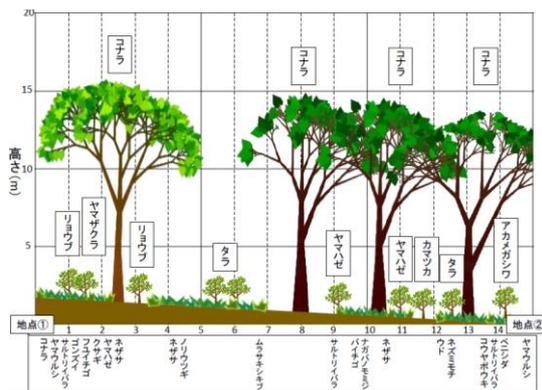
間伐材の利用として例年行っているシイタケの菌打ちを実施しました。参加者の方の中には、自身でも菌打ちに取り組まれている方も居られ、管理方法やシイタケ菌の種類について話し合う姿も見られました。



第 35 回 令和元年 5 月 18 日 植生調査を体験

里山保全活動を開始した平成 22 年の 4 月第 1 回からちょうど 10 年目を迎えました。講師先生からの提案で、この節目の回に、第 1 回と同様に「植生調査」を実施し、10 年間の活動成果を確認することとしました。

新たなボランティアさんもいる中で、改めて植生調査を勉強、体験していただきました。結果としては、草本層の種類が 19 種から 42 種と大きく増加しており、活動によって植物の低い層に光が届くようになったことが分かりました（その中にはササユリ・キンランといった貴重な種も記録されました）。



第36回 令和元年12月7日 竹の駆除体験

以前から要望が多かった竹の駆除について講師先生から説明を受け、竹が侵入した里山林の管理方法を学びました。イオンチアーズクラブ様の参加もあり、子どもたちと協力して作業をし、林はとても明るくなりました。

また、参加者の皆さまからも、取組みたい内容など様々な意見が頂けるようになり、今後も活発な活動として続けていきます。



第37回 令和2年1月18日 里山管理作業 / 薪割り体験・しいたけ菌打ち

竹を駆除した林の近くに手を入れました。低木も常緑樹は間伐し、落葉樹を残すように整備し、明るい林が広がりました。

また、間伐した木の活用として、今ではなかなか触れる機会がない「薪割り」を体験しました。例年好評の菌打ちも実施し、今年度の間伐材はボランティアの皆さまに全て持ち帰っていただきました。

